

# CAGLIERO 11

NEWSLETTER FOR SALESIAN MISSIONARY ANIMATION



第 25 号

～ サレジオ会宣教ニュース ～

2011 年 1 月 11 日

## DVD を皆さんで見ましたか？



親愛なるサレジオの宣教師、サレジオ・ミッシェンの友人の皆さん、

2011 年の新年に主の祝福を皆さんの上にお祈りしつつ、心からのあいさつを送ります！

恵みの 365 日が私たちの前にあります。私たちはそれぞれ異なる文化のなかで暮らしていますが、皆、私たちの兄弟、主、宇宙の中心であるイエス・キリストに結ばれています！

今年、総長は、召命の文化を築き上げるよう、私たちドン・ボスコのサレジオ家族を招いています。カリエロ 11 は今年、サレジオの宣教の文化の成長に寄与したいと願っています。それは同じキリスト者の生き方というコインの裏側です。

宣教の文化を強める方法の一つは、日々、魅力的な形で宣教の意識を広めることです。世界各地の、あるいはサレジオ・ドン・ボスコ・ミッション（トリノ）のさまざまな制作物のおかげで、全サレジオ会とサレジオ家族は今日の宣教活動について知っています。毎年、約 15 本の DVD が 53 の民間のテレビ局と 130 カ国の 4000 のサレジオ会支部に届けられています。

サレジオ会共同体を訪ねるとき、私はたいてい共同体の居間にある DVD に興味深く目を通します。この宣教に関する情報や学びの貴重な手段を会員たちがどのように活用しているのか、見るためです。二つの対照的な状況を見ました。数年たつてまだ開けられてもいない DVD のある支部もあれば、院長がトリノから送られた DVD をコピーし、宣教拠点の 40 人のアニメーターやカテキスタに送った支部もあります。

インターネットを見られないところも多くあります。しかし、電気がないところでも、一台の発電機に助けられて DVD プレーヤーをつけ、たくさんの映像資料を見ることができます。ある修練長は、毎日曜日、短い解説をした後で修練生たちに宣教のビデオを見せています。

<http://www.missionidonbosco.tv> で、世界各地の多くのビデオを見ることができます。まるでサレジオ宣教ユーチューブです。[www.sdb.org](http://www.sdb.org) では、過去 5 年の間に Missione Don Bosco の制作した DVD のリストを見られるセクションがあります。7 か国語の台本さえあります。気軽に手に入る宝物です。

宣教の文化を広め育むことは、私たち誰にでもできることなのです。

宣教顧問

*Václav Klement*  
Fr. Václav Klement, SDB

## アジアのための宣教師募集

管区 - 国	必要な言語	活動・要件
CIN - 中国	中国語、英語	管区を助ける若い会員を求む（マカオ、香港、台湾）、特に修道士 元氣な召命
FIS - パキスタン	英語、ウルドゥ語	会員が少ない、イスラム社会の困難な状況、技術教育、力強い修道士の召命・養成担当者を求む
LKC - スリランカ	英語、シンハリ語、タミール語	会員が少ない、2009 年に終戦、共同体の国際化が必要（南アジア地域以外の出身の会員）
SLK - アゼルバイジャン	ロシア語、あるいは英語、アゼル語	カトリック信徒約 600 人、3000 人の移民、穏健なイスラム社会、共同体の国際化が必要、スロバキア人以外の会員を求む
THA - ラオス	英語、ラオス語	2004 年に開設された信徒の運営する技術訓練センター、修道士を求む、宗教的存在として出発する必要、共産政権、貧しい国



私は、修練期のころから宣教師になりたいという望みを抱くようになりました。ただで受けたものをただで与えるということ、強く信じていました。ドン・ボスコの道に従うキリストの愛。この特別な表現は、本当に私の心を満たしてくれます。宣教師たちがいなかったなら、私の国には今のように多くのサレジオ会の事業もなく、多くの子どもたちが世話を受けることもなかったでしょう。宣教師としての私の召命は、実地課程を過ごしたすべての支部で強められました。52年以上の経験を持つフランス人会員ゲズー神父のよ

うな偉大な宣教師と使徒職や生活を共にしたこと、また20年以上アフリカで働いているインド人のジョン・ヴィジリウス神父との出会いは、宣教への情熱を強める重要な体験でした。

私の宣教地、カンボジアに到着したとき、私は熱意にあふれていました。しかし、2日もたたないうちに陽チフスにかかり、一週間寝込んでしまいました。私はとても落ち込みました。幸い、一週間後に起き上がり、いつもの自分に戻れました。また、子どもたちや人々と話したいと思いましたが、できませんでした。幼い子どものように無力でした。これは本当に意気をくじかれる体験です。自分の国にいるかぎり、コミュニケーションに不可欠なもの——言葉の大切さを見過ごしているということ、私は理解しました。人々、特に生徒たちは、自分たちのニーズに私が「イエス・マン」になって応えるかぎり、サレジオ会員として私を受け入れてくれる、というのが私の最初の印象でした。

今は、少しずつですが、だいぶよくなりました。人々がクメール語で話すのにすっかり馴れました。言っていることがすべてわかるわけではありませんが、来たばかりのころのように異質な言葉のように感じなくなりました。今では、人々や子どもたちが心から私のことを友人、兄弟として受け入れてくれていることを知っています。新たな文化、新たな人々との出会いの最初の時期を通して、共同体の支えと導きを私は身をもって感じました。それはいつも、私の拠りどころでした。

今は、ここでわが家にいるように感じ、カンボジアは私の国だとさえ生徒たちに話しています。日々、仕事はたくさんあるので、外国にいるということをおぼれていることもしばしばです。ここを気に入っています。良い人たちの中で、すばらしい仕事があります。私にとって、まさに日々、ヴァルドッコの体験です。ここカンボジアにいることは、ダマスコへの途上のサウルの体験、主を見たという体験を思い起こさせます。ドン・ボスコの時代のヴァルドッコにいるような体験なのです。



在カンボジア宣教師 チャールズ・アルン・マイケル修道士 SDB

## 宣教の炎を燃やすために、私たち自身、燃え立っていること



私たちは、イエスの物語への新たな洞察を、それぞれの共同体へ持ち帰ります。私たちは、若い心に宣教の炎の火をともしよう、生き生きとした、心を奮い立たせるような物語をもたらすために、燃え立つことを望みます。悪霊から解放された人へのイエスのことばに従いたいと望みます。「自分の家に帰りなさい。そして身内の人に、主があなをあわれみ、あなたにしてくださったことをことごとく知らせなさい。」(マルコ 5・19)

アジア宣教大会 タイ、チェンマイ (2006)



Salesian Missionary Intention

## 南アジア地域のために

南アジア地域、特にパキスタンで働くサレジオ会員が、私たちとほかのキリスト教諸教会の兄弟姉妹を結ぶ橋を築くことができますように。

南アジア地域のすべての国のキリスト者の割合は、人口の1 - 2%しかありません。ほかのキリスト教共同体の兄弟姉妹と関係を築くことは、容易でないこともあります。キリスト者のおもな関心が非キリスト者に向けられているためです。同時に、圧倒的にキリスト教以外の宗教が大勢を占める環境にあつて、より信頼できる福音のあかしのため、キリスト教諸教会が互いに一致の交わりをもつ必要があることを私たちは確信します。



ご意見は [segrgia@donbosco.jp](mailto:segrgia@donbosco.jp) まで